

夢 塾 だ よ り

～ 塾 生 からの手紙 ～ (第10号)

平成30年4月13日

塾を開設して2年が過ぎました。1年目は大学に1名、高校に5名。2年目は大学に6名、高校に6名が合格し、それぞれ次のステップに踏み出しました。塾を巣立っていく生徒は我が子同様、むしろそれ以上にかわいく、愛情をそそぎ育てられたのかなと少なからず思っています。入学試験では思うような点数がとれずに、浪人する生徒もいます。ですが「若い時の苦労は買ってでもしなさい」と言われるように、思い通りに行かない人生の方が平坦な道に行くより面白く、波乱に富んだ豊かな人生になります。すべてが自分の思ったとおりになれば結局、自分が思っている程度の人間にしかたれません。思った通りにならないからこそ自分の想像をはるかに超えた人間に成長できるのです。



この4月に親元を離れて県外の大学に進学した生徒から直筆の長い手紙をもらいました。読んでいる途中も読み終わってからも感激の涙がとめどなく流れました。原文のまま紹介することをお許してください。教師冥利に尽きるとはまさにこのことを言うんだと思い、塾を開いて本当に良かったと改めて思っています。

『・・・初めての授業の日を今でも覚えています。私は他の人以上に数学が苦手なのできっと先生もあまりのできなさに失望するかもしれない。と不安な気持ちでいっぱいでしたが、先生は全く意に介さず、分かりやすく丁寧に教えてくれました。その後も一度も私の出来なさに怒ったりすることなく、いつも優しく前向きに向き合ってくれました。それは数学だけでなく私自身にも向き合ってくれました。私は数学を通して、数学以上に深いものを先生から学びました。数学を克服する事、点数をあげることも大事ですが、一番は苦手なものに逃げず向き合って取り組むこと。また勉強は自分のため、将来のためというより、周りの人を幸せにする力があることを学びました。・・・私は将来、人と関わる仕事をしたいと思っています。どんな時も、常に広い心を持ち、笑顔で人に幸せを分け与えることが出来る先生のような大人になりたいです。・・・』

こうして写しているときも既に私の目は潤んでいます。ありがとうね。Mさん。